

岡崎市議会議長 様

支出番号

3

会派名

自民清風会

代表者名

鈴木 静男

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

令和4年 9月 26日提出

活動年月日	令和4年8月25日～26日	
氏名	野本 篤	
用務先 及び 内容	1	用務先 全国市町村国際文化研修所（大津市）
	8月25日	内 容 令和4年度市町村議会議員研修[2日間コース]
	2	用務先 全国市町村国際文化研修所（大津市）
	8月26日	内 容 令和4年度市町村議会議員研修[2日間コース]
	3	用務先
	月 日	内 容
	4	用務先
	月 日	内 容
備 考		



政務活動旅行報告書

報告者 野本 篤

【セミナー概要】

研修名：市町村議会議員研修 2日間コース 住民とのコミュニケーション ～対話と発信力の向上～
日程：2022年8月25日～8月26日
場所：全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎2-13-1
講師：京都芸術大学教授、特定非営利法人学習学協会 代表理事 本間 正人 氏



【セミナーのねらい】

日頃の活動における住民とのコミュニケーションについてふりかえり、参加体験型学習を通して、住民の多様な声や地域に潜在しているニーズを広く把握し、理解することについて学ぶ。
また、地域の情報や施策など、住民に伝えたいことや住民が必要としている情報をより分かりやすく発信することについて、SNS等の媒体を含めた活用とその際の注意すべき点について学ぶ。

【セミナー内容】

学習することは楽しいことである。

人生100年時代、最終学歴にこだわることはない。社会に出てからも常に学びと共にある。最新学習を更新していくことが大事であり、それが人生を豊かにしていくのである。

人はそれぞれ違うものであり、考え方も色々。

自分を中心に考えてしまいがち。

近い人の声しか届かないようではいけない。

聞こえてこない声をいかに引き出し聞くことができるか。

多様な声に耳を傾けることが大事である。

答えがたくさんあることを題材に話し始めると盛り上がる。

会話をするときの大事なこととして、聴き合う、否定しない、多様性を楽しむ、自分の意見を言う。自分の意見を言う事が苦手なのは練習不足である。

相手に対して先入観や固定観念があるが、理解する努力が必要なのである。

聴くという行為はアクティブなものである。相づちや頷き、繰り返しなどの興味を示す姿勢と相手の立場に立った答え易い質問の仕方が大事。

質問のスキル「ヒーローインタビュー」

質問力の必要性を体験。

相手に成功体験を話してもらい、ヒーローインタビューのように深掘りをしていく。相手はどんどん話してくれます。

次第に心の壁が消えていくのを実感した。

やる気のない人はいない。やる気はその時に高いか低いかがである。人の内側にあるやる気を引き出していく。

それは、卵の中のヒナにツツンするがの如く。強すぎず、弱すぎず、早からず、遅からず。

答えは無限にある。あたり前と決めつけてはいけない。

ベストな方法をなぜそうなのかと説明できる能力が必要である。

説明スキルの向上「ブラインド・ウォーク」

二人一組で、片方が目をつむり片方が声で誘導する体験。

相手の立場に立って伝えること。自分にとってのあたり前が他の人のあたり前ではない。

曖昧な表現ではなく、具体的な数字、色々な意味に捉えられる言葉は使わない方がいい。

言葉だけで伝えることの難しさがよくわかった。

目標設定の必要。

どこへ行くのか？ 目指す姿は？ 今はどこだ？ 強みを活かせるか？

共有と巻き込みが必要である。

ビジョンを語る「未来のヒーローインタビュー」

未来にどうなっていたいかを想定してヒーローインタビューをするものである。

将来のビジョンを深掘りして質問していく。脳が活性化して次々に話がでてくる。明るくなり元気になる。

将来のビジョンを考え、視点を変えると、目の前の壁は小さなものになってくる。その目指す姿から予測と逆算をして行動していく。

イノベーションに対するブレーキは怖れである。

失敗など存在しない。

未成功として挑戦を続けることが大事である

【所 感】

住民のニーズは多様化している。また、社会情勢の変化も著しい。

自治体議員の存在や必要性はどうかと迷うことがある。

議員は地域の代表者ではない。代弁者だと言いつけてきた。

でも、実際はどうか。結論や結果を急ぐあまりに独断的になっているように思える。

住民や地域の声を本当に聴けているだろうか。

住民や地域の声は本当に届いているだろうか。

一方的で勝手な行政運営の手助けをしているだけになってないだろうか。

そもそも、議員にそんな強い影響力はないと解っているが、改めて姿勢を見直す必要があると考える。

発信力は現在では不可欠なものである。

多数を相手にどのような発信が良いのかの判断は難しい。

ただ、自分が何をしているのか、どんな活動をしているのか、わが町にはこんなことがあるとか、どんなことでもいい。

身近な存在であり続けたいと願う気持ちや姿勢を伝えたいという本質が伝わるのが重要なのだと考える。

迎合するつもりはない。

こんな自分を知ってもらい「だからあなたに託すのだ」と言ってもらいたい。

今回の研修は、市政に対しての直接的な施策を学ぶものではなかったが、自治体議員としての姿勢を再確認するよいきっかけをいただいたと考える。

他市の議員の皆さんと悩みや経験を共有することもとても大きな意味を感じた。